



# 『おもしろ半島ちば』シリーズ完結!

## 千葉県の地理・地域を紹介した新聞連載の最終第3巻発行

千葉地理学会 千葉市立千葉高等学校 関 信夫

### 『おもしろ半島ちば』とは?

千葉地理学会が、千葉日報に連載した記事をまとめた『地理から学ぼう ちばの魅力 おもしろ半島ちば』は、第1巻(2017年11月)、第2巻(2020年2月)に続き、2024年5月に最終巻となる第3巻が発刊された。新聞連載は千葉地理学会の会員が執筆し、原則毎週水曜日の地方版(千葉市、県東、県南、県西)で2013年4月から2023年5月まで10年にわたり、県全体や県内各地の地理的事象をテーマに、403回の連載を数えた。第1、2巻は各120編、第3巻では149編で、県全体と5つの地域ごとに紹介している。

第3巻の第1章は、千葉県全体の特色や魅力として32のテーマを取り上げ、第2章「県都千葉市」、第3章「千葉・東葛」、第4章「北総(印旛・香取・海匝)」、第5章「東上総(山武・長生・夷隅)」、第6章「南房総(安房)・内房(君津・市原)」から構成されている。第2章以降の各章も16~30テーマを取り上げ、さらに各章の最終ページには、出版にあたり書き下ろしたコラムを設け、その地域(第1章は県全体)の特色をまとめている。取り上げたテーマは、自然や産業、文化、歴史、地



千葉地理学会著 『おもしろ半島ちば3』

名などのほか、県の独自性や個性を示したものの、最近全国的に話題になったものなど多岐にわたる。

### 地理的視点から語った千葉県の魅力が満載!

この本の基になっている新聞連載の企画は、1960年に創立された千葉地理学会により、2012年ごろから準備された。本学会は、地理や千葉に関心を持つ小学校から大学までの教員のほか、他の職業の方なども含む100名ほどの会員から成る。地理について一般の方にも関心を持ってもらい、広めていこうと考えていたところ、当時会員だった石毛一郎現会長がNIE\*などの活動を通じて知り合った千葉日報社の編集局長(後に社長。現相談役)より、趣旨に賛同を得たことがきっかけとなった。そして、当時の学会事務局長の佐瀬一生前会長も交えて、千葉日報社と話し合った結果、企画が実現した。

そのコンセプトは、①千葉県の多くの魅力を、地理的視点からおもしろく紹介する。②中学生を想定しつつ、一般の大人も興味を持っておもしろさを感じながら読める「地理入門」レベルの内容とする。③読者が「現地に行ってみよう」「もっと調べてみよう」と思えるような余韻のある記事にする、である。これらをベースに、書籍は1テーマを見開き2ページに収めた、一話完結型として、どのページからでも読めるように構成されている。また、カ

ラー写真や図表、地図を示して分かりやすく、親しみが持てるようになっている。

「千葉の地層10選」「交通面から見た半島性」「千葉大学ってどんな大学?」「稲毛八景」「温泉と船橋ヘルスセンター」「伊能忠敬の全国測量」(図1)「千葉県ゆかりの童謡」「チバニアン」など、テーマや地域は多岐にわたっている。

\*NIE: Newspaper in Educationの略で、「教育に新聞を」と訳される。新聞を教材として活用しようという活動。

### 『おもしろ半島ちば3』ご購入方法

一般書店では取り扱っていないため、入手希望の方は、注文用アドレス [omoshirochiba3@gmail.com](mailto:omoshirochiba3@gmail.com) までご連絡ください。定価 1,650円(税込)

#### 第4章 北総(印旛・香取・海匝)地域の魅力

### 4.27 伊能忠敬の全国測量 約4万キロ歩き地図完成

1800(寛政12)年閏4月19日、忠敬は蝦夷地への測量の旅に出ます。江戸から奥州街道を進み、津軽半島先端の三厩まで21日です。そこから北海道に渡り、函館、釧路を経てニッポン(現別海町)に到達します。そこはオホーツク海沿岸風連湖の北で、ここで帰路につきます。この地点が伊能隊到達の最北端、最東端となり、最東端測量の地の標柱が建てられています。この測量の成果を踏まえて翌年4月には第2次測量の旅に出ます。

まず、三浦半島、伊豆半島を測量し、6月19日に再出発し房総半島を測量します。その日は行徳本村に宿泊し、鎌倉に至るまで丁度1か月間房総半島沿岸の測量を行います。主な宿泊地は横見川、五井、木更津、富津、勝山、洲崎、江見、勝浦などです。

籠山にも登り、那古観音にも詣でています。7月16日には故郷に近い鹿形村(現横芝光町)の名主

伊能隊測量年表

方角	測量の前後日	日数
1 蝦夷地へ	寛政12閏4~10	180
2 本州東海岸	享和元4~12	230
3 東北日本海沿岸	2.6~10	132
4 東海から北陸へ	3.2~10	219
5 紀伊半島・中国沿岸	文化2.2~3.11	640
6 淡路島から四国	5.1~6.1	377
7 九州一巡	7.1~8.5	631
8 九州二巡・中国内陸	8.11~11.5	914
9 伊予七島	12.4~13.4	340
10 江戸管内	13.8~10	74

保家に宿泊し天体観測を行っています。横芝光町ではここに「伊能忠敬宿泊地観測地」の碑を立てています。鎌倉から常陸まで陸奥へと測量の旅が続きます。下北半島を回り津軽半島三厩に到達したのは11月3日で江戸再

出発より133日も要しました。その後奥州街道を江戸に戻ります。

この測量で忠敬は、緯度1度は28.2里(約110km)と算出します。これで地球の大きさを知るといふ当初の目的は達したことになりますが、全国測量の旅はまだ15年も続きます。

第3次測量で津軽半島から新潟まで、第4次測量で東海から北陸までを測量し、それまでの成果を合わせて「日本東半部沿海地図」を幕府に提出します。その地図は時の将軍徳川家斉も閲覧し、幕府は西日本の地図作成も忠敬に命ずることになるのです。

第5次測量以降は幕府の事業として、紀伊半島と中国地方、四国、2度の九州測量と続きます。中でも第8次測量は種子島、屋久島、香取、対馬、五島列島にまで及び、屋久島が伊能隊測量最南端の地で、それを伝える「伊能碑」があります。現在、忠敬を顕彰する記念碑や案内板などは全国に190基以上あるとのこと。

測量を終えた忠敬は1818(文政元年)に73歳で亡くなりますが、その3年後に弟子たちの手によって「大日本沿海地全図」が完成します。忠敬は晴高橋至時の橋に昇ってほしいと遺言し、浅草に程近い上野野空寺に墓があります。また佐原観音寺の伊能家墓地にも遺髪と爪が葬られた墓があります。結果的に忠敬の歩いた距離は約4万kmで、それは忠敬が知りなかった地球1周の距離とほぼ同じでした。

(鎌田正男 2022.03.02付掲載)



源安寺 忠敬の墓

図1 『おもしろ半島ちば3』より「427 伊能忠敬の全国測量 約4万キロ歩き地図完成」